

飯能西中だより



天覧山 10月号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和6年度 第7-1号
令和6年10月1日発行

<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立・共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくたぐいませる学校でありたい
飯能西中学校スクールアイデンティティー

学校の使命について考える

校長 中村 公一

ようやく日中の暑さがやわらぎ、朝夕ともに過ごしやすい毎日となってきました。今、生徒達は今週の水曜日に開催される体育祭に向けて熱心に練習に取り組んでおり、先日の予行ではこれまでで一番の意気込みを感じることができました。体育祭の当日にはどのような熱戦が繰り広げられるのか今からとても楽しみです。今年は諸事情により体育祭の開催を平日とさせていただいたため、保護者の皆様にはお仕事などの日程調整でお手数をおかけしておりますことを心苦しく思っております。近年では夏休み後も気温が高く、運動を中止しなければならない日が多いため、昨年までのように9月初旬から中旬にかけて実施しようとした場合には練習があまりできないことから、体育祭の開催時期を10月に遅らせることとしたのですが、10月は部活動の新人戦の県大会やテストのほか、生徒会の役員選挙などが立て込んでおり週末に行うことが困難であるという結論に至りました。このようなことから今年は体育祭を平日開催することとさせていただきましたが、学校行事の日程や内容につきましては、皆様からの感想やご意見なども踏まえながら引き続き検討を続けて参りますので何卒ご理解くださいますよう改めてお願いを申し上げます。

さて、既に年間行事予定の中でお知らせしてあるとおり、今年から数年ぶりに社会体験事業を行う運びとなりました。コロナ禍以降、実施を見合わせていた社会体験事業（職場体験）ですが、生徒が自らキャリアデザインを考えることができるようにしていくためには、このような体験的な活動は外せないであろうと考え今年から12月の初めに第1学年で行うこととしました。現在、受け入れ可能な事業所を調整中ですが、個人で経営されているような店舗などの場合には受け入れが厳しいとのことで、特に生徒からの希望が多い飲食関係や理容美容関係の事業所が少ないようです。保護者や地域の皆様の中で心当たりがございましたら学校までお知らせいただけると幸いです。

ところで学校ではこのような社会体験事業をはじめとした様々な教育活動を通して、生徒に未来を生き抜く力を育てているわけですが、私たち大人が中学生だった頃とは社会環境も大きく変わっているため、これから生徒達に必要とされる力がどのようなものなのか、私たち大人が経験してきたことだけで推し測ることはできません。国内企業の成長と発展により日本経済が支えられていたころは、大学までを含めた学校教育の終着点が就職活動であるかのように捉えられ、学校の使命が人材育成と考える向きが強かったことを否めません。戦前は国家のための人材育成、そして戦後は企業のための人材育成をするのが当たり前のように考えられた場面も多かったのではないのでしょうか。しかしこれからの時代は社会そのものに不確定な要素が多く、社会に必要な人材とはどのようなものなのか誰にもわからないのです。ですから今後どのような社会になろうとも、それに適合し生き抜いていく力を育てていくことがこれからの学校の使命だと私は考えています。そもそも人材という言葉の中には人を組織や社会の一部と捉えるようなニュアンスが含まれており、一人一人の生き方を大切にするという考え方とはまた違った価値観がそこにはあります。そのため普通教育を行う公立学校において人材育成という言葉を使うことには大きな違和感を覚えるのです。もちろん社会に必要なとされていることを意識することは大変重要なのですが、今までのように社会に必要な人を育てるという考え方から、人が必要とする社会を創るという考え方にパラダイムシフト（古い考え方から新しい考え方へ変わる）していくことが必要な時代に入っているのではないのでしょうか。少し理屈っぽいお話で申しわけございませんでした。

現在の社会での教育観について考える

ここでもう少し難しそうなお話を続けさせていただきたいと思います。「教育観の変化」と聞くと私たち教員の間で用いられている専門用語のように聞こえるのですが、教育に関する専門的な知識がなくてもわかるように簡単に説明をしたいと思います。数十年前まで学校の授業は教師が中心となって教え、繰り返し覚え込ませるといったスタイルでした。実際にそのような教育観の中で学んできたという大人は多いと思います。しかしその後、認知心理学の考え方が取り入れられて、学習とは教師に強制されて行うものではなく、学習者が中心となって行うべきものであると考えられるようになりました。それに伴い教師の立場も一方的に教える指導者ではなく、学習を支える支援者として考えられるようになりました。そして現在では、学習とは机の上だけで行われるものではなく、学習者が主体となり人との関わりの中で行われるものであると考えられるようになり、先生の立場についても、チームの一員として共に学ぶという姿勢が大事であると考えられるようになってきたのです。これらの教育のスタイルのことを上から順に、行動主義、認知主義、社会的構成主義と呼んでいるのですが、最近の学習観である社会的構成主義に近い考え方が飯能市でも力を入れている学びあいです。本校の教育観も世界標準を意識したものへと変化してきています。

世界的な教育観の変化

行動主義（1950年代～）

・教師主導 先生が教育する

認知主義（1970年代～）

・学習者中心 先生は支援する

社会的構成主義（1990年代～）

・学習者主体 先生も一員である

日常生活の中で手に入れている財産があります

生徒の皆さんへ

西中生のよいところについて改めてお話してみたいと思います。みなさんのよいところ。たくさんあるのですが、私が最近よく思うのは、**挨拶がよく出来る人が多いこと、気遣いだけでなく心遣いができる人が多いこと、そして何よりも素直な人が多いこと**です。他の学校などに行ってみるとその違いがよくわかるのですが、皆さんは先生に対しても来校者に対しても本当にいつも気持ちのよい挨拶をしてくれています。地域の方からも西中生が気持ちのよい挨拶をしてくれているというお褒めの言葉をいただくことがあり、「出会ったらまず挨拶」という習慣が実践力として身につけていることの現れと言えるのではないのでしょうか。実はこういった実践力の積み重ねこそが、私たちの一生を大きく左右するものだと私は思っています。皆さんはこれまでに親から小言を言われたり叱られたりしたときなどに、「わかってる！」と反発したくなったというような経験はありませんか。なかなか素直になれず思わず口に出てしまったりすることもあるかもしれません。しかし、わかっただけではいなくても出来ていなければ意味がないということぐらい、皆さんもよく理解していると思います。「知っている」「わかっている」というような知識だけでなく、「できている」「やっている」というように実践力を伴った力を持っていることこそが大切なわけです。また、こんなことがありました。私が玄関で大きな荷物を抱えていたときにある生徒が素早く駆け寄ってきて荷物を持ってくれたのですが、「大丈夫ですか」とか「持ちましようか」という気遣いだけでなく、ドアを開けたり荷物を運んだり先回りした心遣いができるのも皆さんのよいところだと思います。さらに皆さんはこれまで校長講話などで話してきたことをよく聴き、これに素直に反応して実生活の中でも違いを作り出してくれていると思います。皆さんの何気ない行動の中にそのよさが表れています。

「知っている」「わかっている」

より

「できる」「やっている」

ほうがいいにきまっています

校長講話から

○ 10月の主な行事予定 ○

10月2日（水）体育祭	} 給食あり	17日（木）入間西部地区駅伝大会
3日（木）体育祭予備日		とうのす茶話会
4日（金）体育祭予備日		22日（火）とうのす宿泊学習
8日（火）4市テスト		23日（水）とうのす宿泊学習
10日（木）テスト前部活動停止		24日（木）生徒会役員選挙
15日（火）中間テスト1日目		29日（火）学校公開（11月1日まで）
16日（水）中間テスト2日目		30日（水）合唱祭 給食なし